

平成27年12月16日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第7回）資料

道徳教育の評価の現状について

国分寺市立第四小学校 統括校長 古屋 真宏

1 道徳教育の評価について

(1)道徳教育の評価 三つの視点

- ◎児童・生徒の道徳性の評価 ⇒ 児童・生徒はどのような実態や状況にあるのか。
- 指導方法や指導内容の評価 ⇒ 指導方法等は適切であったか。有効であったか。
- 指導計画や指導案等の評価 ⇒ 指導計画や授業の組立ては効果的であったか。

2 道徳の時間の評価の現状と課題

(1)ねらいと評価

〔例1〕 小学校1年 親切、思いやり（資料名 はしの上のおおかみ）

ねらい：身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

評価：おおかみの立場に立って、親切にすることの心地よさを考えることができたか。

いままでの自分の生活を振り返り、親切にできたことを想起することができたか。

〔例2〕 小学校5年 友情、信頼（資料名 言葉のおくり物）

ねらい：互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合おうとする心情を育てる。

評価：男女分け隔てなく、仲よく協力しようとする意識が生まれたか。

(2)評価について慎重さが求められる理由

- ・道徳性は子供の内面的な問題であり、人格や生き方の全体にかかわるため、道徳の時間での把握には限界がある。
- ・道徳の時間は、道徳性が体験や実践的な行為として表れる場ではないので、もとよりその全体を見取ることはできない。
- ・道徳の内容項目そのものが、子供が一生かけて育むような向上目標的な趣旨をもっている。 など

(3)課題

抽象的、曖昧、雰囲気等に基づく評価からの脱却を図る。

多様な評価方法を効果的に活用する。

3 道徳科の評価に向けた小学校長の取組

(1)千葉県公立小学校長

- ・どの子供も、よりよく生きようとしているその姿をしっかりと観察し記述する。それぞれの担任は、道徳的価値の伸びている部分を記述して子供たちに知らせ、実践意欲を高め伸ばすための評価を行う。

⇒道徳ファイルを活用した評価（ポートフォリオ）

子供たちが考えを記入したワークシートや資料を個人ファイルに挟んでいく。子供がそれを見て振り返り、自分の成長をメタ認知するとともに、教師もその変容をとらえ、通知表等に記述している。

(2)静岡県公立小学校長

- ・評価をするには、目標をきちんと設定し進めることが重要であるため、内容項目をしっかりとおさえて授業することを意識させている。
- ・毎時間、ワークシートを活用し本時の振り返りをしている。道徳ノートを個人で持たせ、積み重ねを大切にしている学校もある。子供自身にしっかりと振り返りをさせ、教師自身は子供の振り返りの言葉で評価ができるようにする。
- ・成長した点、心の在り方については、一部であるがあゆみの行動欄に記入している。

4 道徳の時間における評価の事例

(1) 東京都小学校道徳教育研究会研究部の指導案（抜粋）

平成 27 年度研究主題

自立した人間として、他者と共によりよく生きる児童を育てる道徳教育
～多様で効果的な道徳科の指導方法の開発～

①第 1 学年研究授業 主題名「自分のよさを見つけて」 内容項目 A-4 個性伸長
ねらい：自分の特徴を知り、長所を大切にしようとする心情を育てる。

評 価：ア 自分の特徴や良さに気付くことの意味を、共感を通して考えられたか。

イ 自分の良さに気づき、自己を見つめることができたか。さらに、それを大切にしていこうとすることができたか。

②第 4 学年研究授業 主題名「自分らしく生きる」 内容項目 A-4 個性伸長

ねらい：「自分らしさ」について考え、自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうとする心情を養う。

評 価：「自分らしさ」について考え、自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうと考えていたか。

5 特別の教科 道徳（道徳科）の評価について

(1) 評価の観点をどのように考えるか

① 1 単位時間の授業における評価の観点

○本時のねらいに基づき、道徳科の目標に示されている、以下の学習状況を評価する。

- ・道徳的諸価値について理解する
- ・自己を見つめる
- ・物事を多面的・多角的に考える
- ・自己の生き方についての考えを深める

② 学期や年度における評価の観点

○道徳性を構成する諸様相である、以下の内面的資質に関する学習状況や成長の様子等を評価する。

- ・道徳的判断力…道徳的場面において善悪を判断する能力
- ・道徳的心情…道徳的な価値の大切さを感じ取り、善を行う喜び、悪を憎む感情
- ・道徳的意欲や態度…道徳的価値を実現しようとする意志の働きや道徳的行為への身構え（道徳的習慣・行為）

※育成すべき資質や能力との関連をどのように考えるか

- ・知識・技能（道徳的価値）
- ・思考力・判断力・表現力（道徳的判断力）
- ・主体性・多様性・協働性 学びに向かう力 人間性（道徳心情、道徳的実践意欲と態度）

◎東京都小学校道徳教育研究会研究部 研究授業指導案（抜粋）

1 第 1 学年研究授業

(1) 主題名 「自分の良さを見つけて」 低学年 A-4 個性の伸長

(2) 教材名 「ぞうさんのおはな」（自作教材 絵：江野沢柚美）

(3) 本時のねらい

- ・自分の特徴を知り、長所を大切にしようとする心情を育てる。

(4) 学習指導過程

	学習活動 (◎中心発問○発問・予想される児童の考え)	★指導上の留意点 ○発問の種類 ◆評価
つかむ	① 教材及び価値への興味・関心を導く。 ○好きな動物は何か。それは、どんな理由か。 ・ライオンがかっこいいから好き。 ・ねこがかわいいから好き。	○学習の視点を定める発問 ★好きな動物とその理由を考えることで、長所に目を向ける学習であることを意識付ける。
	② 「ぞうさんのおはな」を読んで話し合う。 ○心に残ったことはどんなことか。 ・ぞうさんの鼻は、よいお鼻だな。	★児童の問題意識から、教師と児童で「学びの視点」を設定する。 ○問題意識をもたせる発問
<p>【学びの視点】 自分にも、ぞうさんのような「よいところ」はあるか</p>		
深める	○自分の鼻の形が友達の鼻の形と違うことに気付いたぞうさんは、どんな気持ちだったか。 ・どうして、ぼくだけこんなに長いんだろう。 ・ぼくの鼻は、長くていやだな。 ・こんな鼻の形をして、はずかしいな。 ○いろいろなことができる鼻だと知ったぞうさんは、何を思ったか。 ・お母さんだって、同じだな。 ・木の実を取ったり、水浴びをしたり、シャワーをしたりすることができる鼻で良かった。 ◎シャワーをふきあげているとき、ぞうさんは自分の鼻にどんなことを言いたいと思うか ・喜んでもらえて、うれしいな。 ・役に立ってうれしい。 ・この長い鼻で、いろんなことをしてみたいな。 ・ほかにもできることを見つけてみよう。	★良さを良さとは気付かないときの気持ちを考える。 ○道徳的価値を理解させる発問 ★自分の良さに気付いたときの多様な感じ方、考え方を共有する。 ○道徳的価値を理解させる発問 ★自分の良さを生かす意味について考える。 ○道徳的価値について相互に吟味させる発問 ◆自分の特徴や良さに気付くことの意味を、共感を通して考えられたか。
生かす	③ <u>自己を更に見つめる</u> ○「自分の良さ」とは、どんなものだと考えるか ・勉強をがんばっている。 ・友達に優しいと思う。 ★保護者、友達からの「あなたの良さカード」を読む。	★自分の良さを考える。 ○自己の生き方に生かす発問 ◆自分の良さに気づき、自己を見つめることができたか。
つなげる	④ 「自分の良さ」を見つめる意味を考える。 ○自分で考えた「自分の良さ」と、お家の人と友達が考えた「自分の良さ」を見て、どう思ったか。 ・自分にはいいところがたくさんあって、うれしい。 ・びっくりしたな。	★保護者や友達から見た「自分の良さ」を考え、学習をまとめる。 ○これからのつなげる発問 ◆自分の良さに気づき、大切にしようと思えることができたか。

(5) 評価

- ・自分の特徴や良さに気付くことの意味を、共感を通して考えられたか。
- ・自分の良さに気づき、自己を見つめることができたか。さらに、それを大切にしていこうとすることができたか。

(6) 授業の実際（抜粋）

「つかむ」段階では好きな動物と、その理由を問うた。児童は意欲を高めながら考えていたようだった。同時に、動物の特徴と好きな理由を発表させたことにより、興味や関心を高めるとともに、ねらいとする道徳的価値への方向付けも行うことができた。

教材は、紙芝居形式で提示した。児童は集中を高めて読み聞かせに聞き入り、教材の世界観に浸る姿が見られた。教材を読み聞かせた後に、教材の感想を問うと、ぞうさんのお鼻の良さを児童は表現していた。そこで、「この鼻はぞうさんの良さだと思うか」と問いかけると、「良さだと思う」と答える声が多く聞こえた。さらに「では、みんなにも自分の良さはあるかな?」と問うと、「ない」「ある」「難しい」などと様々な答えが返ってきた。その上で、「今日は『自分にも良いところはあるかな』をみんなで考えていこう」と学びの視点を設定した。

「深める」段階では「ぞうさんの物語をヒントに『自分の良さ』を見つけていこう」と投げかけ、共感する発問から進めていった。第1の「みんなと違うと思ったとき」に関しては、「悲しい」、「いいところがない」等、自分の良さに気が付かないときの気持ちについて考えることができた。

「いろいろなことができる鼻だと知って」に関しては、「うれしい」「鼻を使いたい」「すてきな鼻でよかった」等、自分の良さに気が付いたときの喜びや、自分への自信について考えを深めていた。

中心発問「自分のお鼻に言いたいこと」では、最も多く挙手があり、意欲をもって考えているようだった。ここでは例えば、以下のような発言があった。

「楽しい」…良さを生かす喜び

「ありがとう」…良さがあることへの感謝

「お鼻があると、みんなと仲良くできる」…自分の良さを生かして、他者とよりよく関わる良さ

「うれしい」…良さがあることへの自己肯定感

このように、児童は自分の良さがあることに対して、多面的に考え、表現することができた。

「生かす」段階では、学びの視点の設定、中心発問での話合いを受けて、児童は比較的容易に自分の良さを見つめ記入していた。さらに、保護者や友達からのメッセージを受け取ると、うれしそうに読んでいた。それを受けたまとめでは「うれしい」「びっくりした」「お家の人にありがとうと言いたい」などという記述が多く見られた。

(7) 参考資料 (自作教材本文)

ぞうさんの おはな

森のひろばで、ぞうさんが わにさんと かばさんと いっしょになかよく あそんでいました。わにさんが、言いました。

「ぼくの口、大きくて いいでしょう。」

すると、かばさんも 言いました。「ぼくの口だって 大きいよ。」

すると、ぞうさんは 言いました。「いいなあ、ぼくの 口は そんなに 大きくないよ…。」

わにさんと かばさんは「でも、ぞうさんには、すてきな ながい おはなが あるじゃない。」

と言いましたが、ぞうさんは「ぼくは なにか ちがうのかなあ。」と、かんがえて しまいました。

ぞうさんは とぼとぼと いえにかえりました。

ぞうさんの ようすを見て、お母さんは、長いおはなで やさしく だきよせ、「ぼうや、どうしたの？」と たずねました。ぞうさんは、うつむいたまま お母さんに 言いました。

「ねえ、母さん、どうして ぼくは おはなが ながいの。わにさんや かばさんとおなじ、大きな口が よかったよ。」

お母さんは、もう一ど おはなで ぎゅっと だきよせ、こたえました。

「ぼうや、母さんの おはなを 見てごらん。母さんの おはなも 長いよ。このおはなで、木のみを とったり、水あそびを したり、いろいろなことが できるでしょう。いいことも あるのよ。」

ぞうさんは、お母さんを見て、にっこり しました。

つぎの日も、ぞうさんは わにさんと かばさんと あそびました。ぞうさんの とくいな おはなの シャワーで 水あそびを しました。しばらく あそんでいると 木に 大きな みが なっているのを見つめました。

「あの 木のみ、おいしそうだね。」「たべたいな。」

わにさんと かばさんが 言いました。

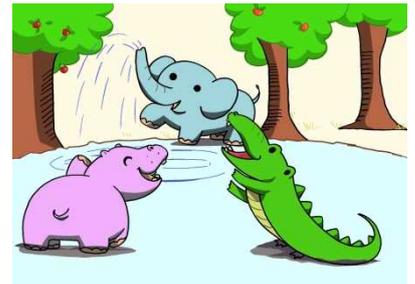
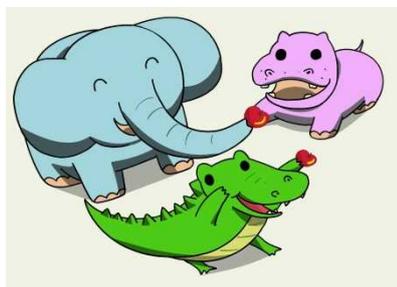
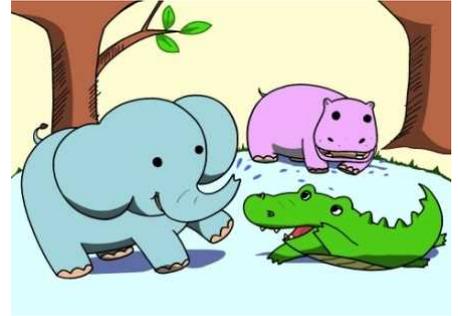
すると ぞうさんは、長いおはなで 木のみを とり、わにさんと か

ばさんに 一つずつ とって あげました。

「ぞうさん、ありがとう。」「きみのおはなは、いろいろなことが できるんだね。」

ぞうさんは、大きく 大きく おはなの シャワーを ふきあげました。

(上田 郁子 作 ・ 江野沢 柚美 絵)



2 第4学年研究授業

(1) 主題名 「自分らしく生きる」 中学年 A-4 個性の伸長

(2) 教材名 「嵐に魅せられて～ただ一人のストームチェイサー～」(自作教材)

(3) 本時のねらい

- ・「自分らしさ」について考え、自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうとする心情を養う。

(4) 学習指導過程

	学習活動 (◎中心発問○発問・予想される児童の考え)	★指導上の留意点 ○発問の種類 ◆評価
つかむ	<p>① ねらいとする価値に関心をもつ。</p> <p>○「自分らしさ」とはなんですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことをする。 ・人とは違ったことをする。 	<p>○学習の視点を定める発問</p> <p>★「自分らしさ」は「長所」と「短所」を併せ持つことを押さえ、教師と児童で「学びの視点」を設定する。</p>
<p>【学びの視点】 「自分らしく生きる」とはどのような生き方なのか。</p>		
深める	<p>② 「教材」①を読んで話し合う。</p> <p>※『情熱大陸』冒頭4分間を視聴し、教材文範読を聞く。</p> <p>○豊さんとはどんな人ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真が好きで、撮るのが上手な人。 ・夢をあきらめないで努力する人。 ・嵐を怖がらない勇気のある人。 <p>◎入院中、豊さんは何に悩み、進む道を見いだしたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は写真が大好きだ。 ・嵐をもっと追究したい。 ・人々の役に立つ写真を撮りたい。 <p>○豊さんのような生き方をどう考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことを続けていてすごい。 ・好きな写真を続け、社会の役に立っていてすごい。 ・まねできない。家族や生活も大切。 	<p>★テレビの番組の録画映像の冒頭を見て、青木豊さんについて知る。</p> <p>○物事を多面的、多角的に考えるための発問</p> <p>★長所と短所を上下に分けて書き分けた板書をする。</p> <p>◎道徳的価値について理解する(授業のねらいに直接かかわる) 発問</p> <p>★自分とのつながりの中で考える。</p> <p>○自分事として捉え、自己の振り返りにつなげる発問。</p> <p>◆「自分らしさ」に気づき、それを伸ばそうと決意した主人公の心情を理解していたか。</p>
	<p>③ 今日の学習から自分を振り返って考える。</p> <p>○これから「自分らしさ」をどのように生かしていきたいですか。</p>	<p>○生き方についての考えを深める発問</p> <p>★ワークシートに「○○さんらしさ」用紙を添付しておく。</p> <p>◆「自分らしさ」とは何かを考え、自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうと考えていたか。</p>
生かす	<p>※事前に実施した友達からの「○○さんらしさ」カードを示し、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなを明るくしてくれる、と書いてもらったので、これからは明るくしていきたい。 ・得意なピアノを生かして幼稚園の先生になりたい。 ・自信を持って好きなことを貫きたいと思った。 	<p>◆「自分らしさ」とは何かを考え、自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうと考えていたか。</p>
つなげる	<p>④ 教材文②を聞き、学んだことを心にとどめる。</p> <p>○青木豊さんから、小学生のみなさんにメッセージがあります。最後にその文章を紹介します。</p>	<p>★青木豊さんから子供たちへのメッセージを文章化したもの。</p> <p>★授業の様子を思い起こし、余韻を残して終わる。</p>

(5) 評価 ・「自分らしさ」について考え、自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうと考えていたか。

(6)参考資料 (自作教材本文)

教材①

「嵐に魅せられて」くただ一人のストーム・チェイサー」

「ねえ、カメラ、借りてくよ。」

豊少年は今日も自転車に乗って、大好きな車や電車の写真をとりに出かけます。写真屋に生まれ、カメラ機材に囲まれて育った少年の遊び道具は、本格的なカメラ。レンズを向ける角度、光の具合などによって、思いもかけない印象に仕上がる写真の世界は、少年にとりて何よりもおもしろいものでした。中学、高校に上がるとカメラ熱はさらに高まり、学校行事ではさつえい係をたのまれるほどの前になつていました。

やがて大人になった豊さんは、おじいさんの代から続く写真の店をつぎます。ところがデジタルカメラが主流になる時代には勝てず、ほとんど店を閉めることになってしまいました。小さなアパートに引こし、生活のためのアルバイトを始め、さらに体調をくずした父親の世話も重なる、心身ともにつかれ果ててしまうような日々が続きました。そんな時、豊さんの心をなごませてくれたのは大好きな写真でした。道ばたにさく花、部屋から見える空：日常の片すみにカメラを向け、豊さんは写真をとり続けました。

ある日のこと、豊さんはぼんやりと窓の外で光る雷をながめていました。一直線に空を切りさき、あみの目のように空いっぱい広がる稲妻。これまであまり気にしていなかったその形のおもしろさに心をひかれました。カメラを持ち出し、光る夜空に向けてシャッターを切ってみると、ぐう然にも一枚目にするどい稲妻が写っていました。

「雷はねらつてとれるんだ！」

そう思った豊さんは、夢中でカメラのシャッターを切り続けました。結局その日にとれたのは最初一枚だけ。それでも、その日からすっかり雷のとりこになってしまったのです。

ある時、雷を追って車を走らせていると、目の前に城へきのようにそびえ立つ巨大な雲が現れました。冷たい風が吹きつけ、大粒の雨、パラパラと雹(ひょう)まで降ってきました。

「なんて大きな雲なんだ！」

それは、巨大に成長した「スーパーセル」と呼ばれる積乱雲(入道雲)だったので。雷だけを追っていた豊さんの関心は、このことをきっかけに雲や天気の様子全体へと広がっていきました。気象現象のことをもっと知りたい、と思った豊さんは、図書館に通い独学で勉強を始めました。雷のさつえいを始めてから二年近くがたったころ、嵐の写真についてのホームページを立ち上げました。豊さんの名前と活動は、少しずつ世間に知られ、取材の申し込みもくるようになりました。

落雷や台風、竜巻など、様々な悪天候を追い続けるさつえいでは、ひ害を受けた家々や農作物にもカメラを向けることがあります。

「家を失い、畑にひ害を受けた人がいる中で取材を続けていいのだろうか。」

苦しむ人々のことを考え、迷いながらの取材が続きました。茨城県をおそった竜巻の取材では、豊さんの写した映像が新聞やテレビに登場し、大きな反響がありました。

「青木さんの写真で、嵐のおそろしさがよく分かりました。」

「嵐の中、命がけて写真をとるなんてすごいです。自然の力のすごさを感じました。」

多くの人が豊さんの活動を知り、メッセージを寄せてくれたのです。

「自分のとった写真を通して、竜巻や嵐にきょう味をもつ人が増えている。ひょっとしたら災害を防ぐことにも役立つかもしれない。世の中の役に立っているのかもかもしれない。」

豊さんは大きな手ごたえを感じました。

六月は梅雨の季節、一年で最も嵐の多い季節です。張り切つてさつえいを続ける豊さんでしたが、このころから左足に痛みを感じるようになっていました。薬を飲み、痛む足を引かずしながら無理を押してさつえいを続けていると、やがて歩くこともできないほどに病状は悪化、ついには入院することになってしまいました。一番さつえいをした時の入院。病院のベッドで天井をながめながら、豊さんの胸には、くやしさと、あせり、様々な思いがこみ上げてきました。

「日本で他にだれもやっていないことにちよう戦する生き方にあこがれます。」

「おそろしい嵐の雲の美しさにおどろきました。空を見上げるのが楽しくなりました。」

十日ほどの入院の間、豊さんはホームページに寄せられたたくさんメッセージを一つ一つ読み返していました。言葉を心にききみ、少しずつおだやかな気持ちを取りもどしていききました。入院は、豊さんにとつて自分を見つめる大切な機会となったのです。

「一度きりの人生、好きなことをやろう。」

退院後、豊さんは嵐の写真を専門にとるプロのカメラマンとして活動していくことを決意しました。日本でただ一人の、嵐を追いかける写真家、「ストーム・チェイサー」、青木豊の先生です。天気予報をたよりに西(東)へ、今日も豊さんは嵐を追いかけて車を走らせま

教材②

(青木豊さんからのメッセージ→授業の終末での活用)

「苦勞してでもちづけていけるのは、写真をとることが好きだから、まだ見ぬ気象現象を追い続けたいからです。四十代後半のおじさんが夢を追う姿は、こっけいかもしれません。でもね、夢をかなえるのに年れい関係ないんです。たまたま、最初の一步を、ふみ出したのが、その年れいだただけです。もちろん、一人でかなえられたわけではありません。支えてくれるのは仲間、知り合い、そして応えんしてくれる見ず知らずのたくさんの人たちです。「ストーム・チェイサー」は多くの人の支えで活動できるんです。」